

## 第1回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成28年5月19日（木） 13:30～16:30

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 アドバイザー：中村良夫先生（東京工業大学名誉教授）

基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、市村初仁委員、  
鈴木幹一委員、須永久委員、西山紀子委員、  
横島庄治委員、志立正嗣委員、島崎アイコ委員、  
貫名礼恵委員、青木健太郎委員、遠藤寛士委員、  
荻原確也委員、児玉大輔委員

### 内 容

#### 1. 開 会

#### 2. 委嘱書交付式

藤巻町長より各委員へ委嘱書を交付した。（町職員委員を除く）

#### 3. 町長あいさつ

- ・平成26年に軽井沢の50年後、100年後の全体像を見据えたグランドデザインを発表し、このグランドデザインを基に、将来の軽井沢について住民と行政が共に考え行動するための土壌として「軽井沢22世紀風土フォーラム」を立ち上げた。
- ・風土フォーラム基本会議は、フォーラムの核となる組織として運用する。
- ・将来的に、住民全体を「風土フォーラム」と呼べるよう、「他人事」ではない「自分事」のまちづくりを進めたい。

#### 4. 基調講演

演題：「軽井沢 2 2 世紀風土フォーラム発足にあたって」

講演者：風土フォーラムアドバイザー 中村良夫先生

- ・ 軽井沢の歴史を振り返ると、軽井沢は非常にレベルの高い神話作りに成功したと言える。
- ・ 風土とは自然と文化とコミュニティが一体になったもの。
- ・ 今後 100 年のために新しい軽井沢神話を作る必要があり、神話とは行政の計画ではなく、軽井沢に関係する全ての方の故郷を想う信念である。今までの風土の発展を信じ、その上に新たな風土を作っていくという信念を持ち続けることが出来れば、新しい軽井沢神話が必ずできると思っている。
- ・ 未来構想会議の成果、軽井沢モダンとエリアデザインについての説明。
- ・ 風土フォーラムの拠点を、軽井沢のシンボルである浅間山から見つめられる自然豊かな地で、食文化の拠点である発地市庭に設置したことは大変喜ばしいこと。

#### 5. 自己紹介

#### 6. 会長・副会長選任

横島庄治委員を会長、鈴木幹一委員を副会長に選任した。

○会長あいさつ

- ・ 軽井沢町はいろいろな意味で特別な風が吹いている。その勢いに乗り、どこも成し得ていない本当の意味での住民主権の地方分権に一気にたどり着くことはできないだろうか。難題であるが挑戦する価値は十分ある。
- ・ 素晴らしいメンバーであると同時に手ごわいメンバーでもある。ぶつかり合うくらいの意欲がなければ新しい挑戦はできない。よろしく願いたい。

○副会長あいさつ

- ・この委員会では具体的な実行プランを作ることや、具体的なアクションを起こすことが重要と考えている。
- ・軽井沢の将来ビジョンをわかりやすい形で作ることが大切。

7. 議 事

(1) 運営について

- ・軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議は、「軽井沢町まちづくり基本条例」に基づいて設置された組織であり、「軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議の運営等に関する要綱」に基づき運用される。
- ・年間6回程度会議を開催し、軽井沢町の将来像について実現性の高いものを中心に議論し、行政への提案・提言や、住民への周知を行う。
- ・プロジェクトチームは基本会議で議論を重ねるなかで、専門性の高い案件などについて、専門家や関係する団体、選抜した基本会議の委員を交え、研究、検討する組織であり、基本会議の実動組織として機能する。
- ・まちづくり活動支援部会は、町の補助事業である「みんなの力でつくるまち」活動支援事業に伴い、住民主体のまちづくり活動を後押しして、活動の自立に向けた支援などの役割を担う常設の部会として機能する。
- ・基本会議を一般公開していくこととしたい。(承認)

(2) 要綱改正について

○「軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議の運営等に関する要綱」

- ・要綱第2条第2項にある基本会議の構成について、風土フォーラム基本会議の委員人選にあたっては、従来の団体推薦や、団体の長のあて職的人選を改め、それぞれの委員の知識経験に基づき人選を進めてきたため、現在の要綱で「町内各種団体から推薦された者 4名以内」となっている記載を「知識経験者 7名」と書き改めることとしたい。(承認)
- ・風土フォーラムのアドバイザーの中村良夫氏について、基本会議との関係性の明文化を図ることを目的として、アドバイザー職を名誉顧問

職へと変更し就任いただくこととしたい。また、顧問職を設置し、かつて長野県のマスターアーキテクトとして軽井沢町の街並み景観等に携わっていた建築家の團紀彦氏に就任いただくこととしたい。(承認)

### (3) 意見交換

#### A委員

住民全体で住民自治を実践できる環境、コミュニティづくりが大切。風土フォーラムが機能するには、町民と別荘所有者のコミュニティがミックスし、相互理解することにより生まれてくると思う。基本会議では町民の声、別荘所有者の声を拾い上げて消化し、具体化していきたいと思う。

#### B委員

対話のきっかけづくりになるような活動を作ってはどうかと思っている。高知県で砂浜美術館という何もない砂浜をアートに見立て、住民も観光客も楽しむ活動がある。これは何もないことから価値を見出すことで、軽井沢で考えた場合、例えば現状、休耕田の葦の刈り取りに予算をあてているが、住民で楽しみながら活用法を創出するといった参加型の活動にしてみてもと思う。

#### C委員

軽井沢町は町民、別荘住民、観光客など考え方が多様化している。町民の方は、ノリが悪いとか関心があまりないように感じており、町として一致団結して燃えるということが欠けていると感じる。明快なビジョンを作ったうえで、具体的なアクションプランを実行していくべきだと思っている。

#### D委員

別荘所有者や移住してきた人たちは、軽井沢を何とかしようという気持ちが強いが、元から住んでいる町民はちょっと冷めていると感じることがある。風土フォーラムにより関心を持ってもらえるような宣伝手法も必要だと感じる。

#### E 委員

風土フォーラムにおいて、多様な意見を集約し、実行するにあたり、町長の決意や、行政の熱意というものが最終的に必要になる。反対意見があってもやると決め、そこにオーソライズされるようなら、選挙を行うといった町長の決意、行政の決意は必要不可欠ではないかと思う。広域的かつ意識的な風土形成と、より小さなコミュニティとしての風土形成をどう組み合わせるかが議論の軸となると感じた。

#### F 委員

町民の盛り上がりには欠けるという意見について、軽井沢は独特の文化があり、特別なイメージをもたれると思うが、元からの町民は言ってみれば田舎者であり、小さなコミュニティで生きているのでサイズ感に耐えられない。閉鎖的な部分もあると思う。元からの町民へは、ある程度の方向性を示したほうが参加しやすいと感じている。

#### G 委員

もともと住む町民は外国人や別荘所有者の要望に応え、自分の意見を出すことなく生活してきたので、自分の意見を出すというのはなかなか難しいと思う。人が手を出せないものを作り出せば、さらに軽井沢のイメージが上がるのではないかと思う。

#### H 委員

昔からの町民はある意味、黒子と感じている。別荘所有者などは地元が一步引いていることで居心地の良さを感じていると思う。また、役場の職員もガードを固めていると感じる。外から見れば冷たい印象を感じたこともあった。ベクトルを合わせて一緒に動くことによりいい方向に向かうと思うが実行は難しいと感じている。

#### I 委員

長く軽井沢で生活しているがいつになれば地元民になれるのかと思う。軽井沢の人はおもてなしの精神が高い。町民と別荘所有者の方が一緒になってやるという場がやはり見えない。

## J 委員

地元人の中には軽井沢は特別だと思っていない感じがあるのではないかと思う。価値観の「差」ではなく「違い」とあったが、それを埋めることは難しい。まちづくり基本条例は当初、価値観の違いを埋めることができればという思いから作られたが、住民の反応はなかった。個人的には価値観の違いを埋める必要はないのではないかと思っている。

## K 委員

軽井沢の地元人は生まれた時からおもてなしをするのが当たり前という価値観を持ちやすい環境にある。

### (4) プロジェクトチームの設置について

- ・最初のプロジェクトチームとして、新軽井沢エリアデザインに関するプロジェクトチームを設置したい。(承認)

### (5) その他

- ・住民が風土フォーラムに参加しやすい環境を作るため、事務局にて語り合いのテーマを定め、定めたテーマについて関心のある住民に発地市庭にある事務局へ来てもらい、語り合いの機会を設けるという運用を行う。
- ・委員間の活発な意見交換を促すため、次回以降の座席について事務局で指定せず、くじ引きなどにより決める。

## 8. 事務連絡

次回日程と提出書類の確認

## 9. 閉 会